

文学部

【2024年度大学評価総評】

全体的には、適切に設定された年度目標と達成指標に基づいて適切な対応がなされていると評価される。併せて次年度の年度目標と達成指標についても、中期目標を踏まえた、昨年度とは別観点のポイントが設定されており、自己点検・評価を積極的に進める観点からも高く評価される。

帰国生入試・グローバル体験入試・自己推薦入試・国際バカロレア入試といった総合型選抜入試を再編成することを決定したこと、学部全体としてカリキュラム改革に取り組み学則改正を行ったことなど、大学評価委員会の評価結果をふまえて各学科における改革への積極的な取り組みを続けているところは高く評価できる。

さらに、学生の意見を把握し、教育の質向上に活用するための方策についても、文学部質保証委員会で意見交換を行うなど積極的な対応が認められる。引き続き学科・質保証委員会等を通じての検討・議論を継続していただきたいことと同時に、どのように学習成果を評価し、どのようにフィードバックしてその効果を検証するのか、具体的な方策を策定して実施に移すプロセスの実現へ向けた検討も期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
1.1①② ・法政大学学則 別表（11）「人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的」 ・「1.03. 文学部の教育目標・各ポリシー」『文学部履修の手引き』 (https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDV9) ・法政大学文学部 HP 「教育目標」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/20171112_1/)	

基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
2.1① ・法政大学文学部教授会規程 ・2023年度 第1回～第11回 文学部定例教授会 議事録	

2.1② ・「2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書（文学部）」 ・「2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書（文学部）」 ・2023 年度 第 1 回～第 3 回 文学部質保証委員会 議事録
--

基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
4.1① ・「1.03. 文学部の教育目標・各ポリシー」『文学部履修の手引き』 ・法政大学文学部 HP 「ディプロマ・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/diploma/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)	
4.1②③ ・「1.03. 文学部の教育目標・各ポリシー」『文学部履修の手引き』 ・法政大学文学部 HP 「カリキュラム・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/curriculum/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)	
4.1④ ・「1.03. 文学部の教育目標・各ポリシー」『文学部履修の手引き』 ・法政大学文学部 HP 「アセスメント・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/assessment/)	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第 23 条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
4.2① ・「文学部」デジタルパンフレット『大学案内 2024』 (https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-83) ・「4. 各学科カリキュラム・手続き」『文学部履修の手引き』	

<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学文学部 HP 「カリキュラム・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/curriculum/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)
4.2②
<ul style="list-style-type: none"> ・「文学部」デジタルパンフレット『大学案内 2024』(前掲) ・法政大学文学部 HP 「カリキュラム (カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー)」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/curriculum/) ・Web シラバス 文学部
4.2③
<ul style="list-style-type: none"> ・「3. カリキュラム」『文学部履修の手引き』 ・Web シラバス 文学部
4.2④
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学文学部 HP 「アセスメント・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/assessment/) ・法政大学 HP 「学習成果を把握 (測定) する方法 文学部」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/1715/8563/7329/04_.pdf)
4.2⑤
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学文学部 HP 「カリキュラム (カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー)」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/curriculum/)

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2(履修科目の登録の上限)に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化(単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保)を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
4.3①	<ul style="list-style-type: none"> ・「4. 各学科カリキュラム・手続き」『文学部履修の手引き』(各学科の履修単位表)
4.3②	<ul style="list-style-type: none"> ・「4. 各学科カリキュラム・手続き」『文学部履修の手引き』(各学科のカリキュラム表における定員の記述、ILAC科目の定員についての記述) ・Web シラバス 文学部
4.3③	<ul style="list-style-type: none"> ・「2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書」 ・Web シラバス 文学部
4.3④	<ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 文学部 ・「6. 履修」『文学部履修の手引き』

<p>4.3⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.04. ILAC 科目の紹介」『文学部履修の手引き』（習熟度別クラスに関する記述） ・Web シラバス 文学部 <p>4.3⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 文学部 <p>4.3⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 文学部 ・「2024 年度シラバス作成ガイドライン」 <p>4.3⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 文学部
--

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい

【根拠資料】

<p>4.4①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP 「成績評価基準及び GPA 制度について」 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/seisekihyoka_gpa/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) ・法政大学文学部 HP 「アセスメント・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/assessment/) ・法政大学 HP 「学習成果を把握（測定）する方法 文学部」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/1715/8563/7329/04_.pdf) ・「9. 成績」『文学部履修の手引き』 【哲学科】「卒論手続きについて」（卒業論文指導に関する資料） 【日本文学科】学科会議議事録、「大学での国語力」「ゼミナール入門」検討会・反省会資料、『卒業論文執筆のてびき』第八版 【英文学科】「英文学科の卒業論文について（シラバス）」（卒業論文ガイダンス配布資料） 【史学科】「史学科卒業論文の提出と評価について」、「卒業論文作成心得」（卒業論文ガイダンス配付資料） 【地理学科】「卒業論文について」 【心理学科】心理学科 Web サイト「法政心理ネット」に、卒業論文の指導と評価について詳述 (https://www.hosei-shinri.jp/guidance)。評価の基準として「文学部心理学科卒業論文評価表」などを掲載 (https://drive.google.com/file/d/1rXWt0X9SyyYctVJw5ratMUugX_oeGGC-/view)。 <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度 第 8 回 文学部定例教授会 資料 5 (2023 年度春学期 GPCA 集計結果) ・2023 年度 第 1、4～6、10、11 回 文学部定例教授会 議事録 <p>4.4②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「9. 成績」『文学部履修の手引き』 <p>4.4③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『文学部履修の手引き』 ・2023 年度 第 1、5、6、8、10、11 回 文学部定例教授会 議事録 <p>4.4④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『文学部履修の手引き』 ・法政大学 HP 「卒業要件」 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/sotsugyo_yohken/?auth=9abbb458a78210eb17)
--

4f4bdd385bcf54)
4.4⑤
・『文学部履修の手引き』
4.4⑥
・法政大学文学部 HP「アセスメント・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/assessment/)
・法政大学 HP「学習成果を把握（測定）する方法 文学部」（前掲）

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
4.5①	・2023年度第5回文学部定例教授会において、授業改善アンケートの結果の概要を報告し共有した。
4.5②	・2023年度第5回文学部定例教授会において、入学前アンケート及び卒業生アンケートについて報告を行い、あわせて2019年度入学者を対象とした両アンケートの回答を接続したパネルデータの分析結果について報告し、学生の4年間をかけた自己の成長に関する意識変化についての情報を共有した。
4.5③	・2023年度第4回文学部定例教授会において、学部内で執行部が活用するHaloの仕様について決定した。また、第9回文学部定例教授会において、ディプロマインディケーターを用いたDP別修得単位数、DP別平均GPAなどについて実際の数値を示し、活用を開始した。

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
5.1①②	・法政大学文学部 HP「アドミッション・ポリシー」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/policy/admission/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)
5.1③	・デジタルパンフレット『文学部2024』 (https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-85&cs=1)
	・法政大学入試情報サイト (https://nyushi.hosei.ac.jp/)
5.1④	・法政大学 HP「(2024入試) 受験上および修学上の配慮が必要な方へ（障がい等のある入学志願者への案内）」(https://nyushi.hosei.ac.jp/application/files/1216/9052/6591/20230728.pdf)
5.1⑤	・デジタルパンフレット『文学部2024』（前掲）
	・法政大学入試情報サイト

・法政大学 HP「(2024 入試) 受験上および修学上の配慮が必要な方へ (障がい等のある入学志願者への案内)」(前掲)

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP「入学定員・入学者数・入学定員超過率」(2016-2019年度) (https://www.hosei.ac.jp/application/files/8215/7317/9317/19_2-216-5.pdf) ・法政大学 HP「入学定員・入学者数・入学定員超過率」(2020-2023年度) (https://www.hosei.ac.jp/application/files/6916/8775/7029/2-b-1-1_1.pdf) 	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的(教育目標)」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>6.1①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学文学部 HP「教育目標」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/20171112_1/) ・法政大学 HP「求める教員像および教員組織の編成方針」 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/) <p>6.1②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP「教員組織内での役割分担」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/8517/1149/9915/2-a-2_1.pdf) ・「文学部教授会規程」、「文学部教授会規程内規」、「文学部人事委員会細則」および各学科「人事に関する内規」 ・大学の定める「教員の定年に関する規程」、「法政大学名誉教授規程」、「市ヶ谷リベラルアーツセンター運営委員会規程」、「助教規程」、「学部任期付教員規程」等 <p>6.1③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP「専任教員数(女性教員比率及び外国人教員比率)」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/8816/8775/6456/1-b-2_1.pdf) <p>6.1④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学文学部 HP「教員紹介」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/kyoin/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) <p>6.1⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 文学部 ・「4. 各学科カリキュラム・手続き」『文学部履修の手引き』 <p>6.1⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP「大学教員就業規則」 	

(<https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/273.html>)
 ・2023年度 第1回～第11回 文学部定例教授会議事録

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
6.2①② ・「文学部教授会規程」、「文学部教授会規程内規」、「文学部人事委員会細則」および各学科「人事に関する内規」 ・大学の定める「教員の定年に関する規程」、「法政大学名誉教授規程」、「市ヶ谷リベラルアーツセンター運営委員会規程」、「助教規程」、「学部任期付教員規程」等 ・2023年度 第1～11回 文学部定例教授会 議事録 ・2023年度 第10回 文学部定例教授会 資料5 ・2023年度 第1回 人事委員会 議事資料（教員の年齢構成に関する資料）	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
7.1① ・法政大学文学部 HP 「2～4年生向けガイダンス資料等」 (https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2024_guidance_for_buncurrentstudent.pdf) ・法政大学文学部 HP 「新入生オリエンテーション資料」 (https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2024_letters_gakka_guidance.pdf) 【哲学科】新入生オリエンテーション配布資料、2～4年生向けガイダンス資料等 【日本文学科】新入生オリエンテーション配布資料・動画、2～4年生ガイダンス配布資料・動画 【英文学科】新入生オリエンテーション配布資料・動画、2～4年生向けガイダンス資料等・動画 【史学科】新入生オリエンテーション配付資料、2～4年生向けガイダンス資料等 【地理学科】新入生オリエンテーション配布資料・スライド、2～4年生向けガイダンス資料等 【心理学科】2～4年生向けガイダンス資料等配布資料、新入生オリエンテーション用配布資料 7.1② ・2023年度成績不振学生対応リスト 【哲学科】2～4年生向けガイダンス資料等 【日本文学科】新入生オリエンテーション配布資料・動画、2～4年生ガイダンス配布資料・動画 【英文学科】2～4年生向けガイダンス資料等・動画 2023年度第4回英文学科会議議事録メモ（新入生面談・成績不振学生への対応について） 【史学科】新入生オリエンテーション配付資料 【地理学科】新入生オリエンテーション配布資料・スライド、2～4年生向けガイダンス資料等 【心理学科】2～4年生向けガイダンス資料等配布資料、新入生オリエンテーション用配布資料 7.1③	

- ・2023 年度成績不振学生対応リスト
 - ・2023 年度 第1、5回 文学部定例教授会 議事録
- 7.1④
- ・Web シラバス 文学部
 - ・法政大学 全学ネットワークシステム ユーザ支援 WEB サイト
(<https://netsys.hosei.ac.jp/>)
 - ・法政大学 HP「オンライン授業受講スペース」
(https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/00_ichigaya_online.pdf)
 - ・2023 年度 第4回 文学部定例教授会 資料12

基準8 教育研究等環境

- 8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 HP「法政大学研究倫理委員会規程」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/1116/5037/2914/kenkyurinri_iinkai_kitei_1142_2022.pdf) ・「3. カリキュラム」「8. 試験」『文学部履修の手引き』 ・Web シラバス 文学部 ・2023 年度 第18回 学部長会議資料 資料12 (2023 年度 各学部における研究倫理教育の実施状況) <p>【哲学科】 2024 年度「基礎ゼミ」シラバス 【日本文学科】 新入生オリエンテーション配布資料・動画、2～4 年生ガイダンス配布資料・動画、「大学での国語力」配布資料、『卒業論文執筆のてびき』第八版 【英文学科】 新入生オリエンテーションおよび2～4 年生向けガイダンス資料等「卒業論文・レポートを書くにあたって 剽窃 (plagiarism) について」 【史学科】 卒業論文ガイダンス配付資料・動画、2024 年度「基礎ゼミ」シラバス 【地理学科】 新入生オリエンテーション配布資料・スライド、2～4 年生向けガイダンス資料等・スライド、2024 年度「基礎ゼミ I」シラバス、2024 年度「地理実習 (2)」シラバス 【心理学科】 2～4 年生向けガイダンス資料等用配布資料、新入生オリエンテーション用配布資料、心理学科 Web サイト「法政心理ネット内倫理審査委員会による審査」 (https://docs.google.com/document/d/1TxPFBOVyEkYhBoUQy04VjyzCxzDA6w0Io9ue4Xpu02c/edit#heading=h.tmfwb64htdxh)</p>	

基準9 社会連携・社会貢献

- 9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<p>9.1①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学術研究データベースの社会貢献活動欄 ・法政大学文学部 HP「文学部 100 周年記念事業」 (https://www.hosei.ac.jp/bungaku/shokai/100/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) ・法政大学創立百周年記念誌『文学部の百年』 	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>文学部では、2022年度の大学評価委員会の評価結果への対応状況として、2023年度は、授業方法の議論、外国人留学生入試の改善、国際性を涵養するプログラムの再開、成績不振学生への対応等を挙げている。そして特色として学生の国際性の涵養、学習成果の可視化、成績不振学生のサポートを掲げ、積極的に取り組んでいることが、高く評価できる。</p> <p>教育課程・教育内容の特色として学生の国際性を涵養するための教育内容の提供を掲げており、哲学科の「国際哲学特講」で、2023年2月に欧州での現地研修を実施（2020、2021年度はオンライン）した点が評価できる。今年度以降、スタディ・アブロード（SA）プログラムの復活に期待する。</p> <p>学習成果の特色としてアセスメント・ポリシーに基づき学習成果を把握する取り組みを掲げている。学科ごとでは、地理学科では、資格（教員免許、測量士補、地域調査士等）取得者数等の調査を毎年度実施し、学習成果を把握しているが、これらの資格の取得をアピールすることで入学希望者の獲得につながっている点は大いに評価できる。多くの学科では優秀卒業論文・卒業制作の公表を通じて学習成果の可視化に取り組んでいる点が評価できる。文学部は6学科あるが分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標を設定している。今後は把握した結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みが望まれる。</p> <p>学生支援の特色として成績不振学生の状況把握と指導が掲げられている。成績不振学生に対しては、個々に面談を実施することを原則とし、状況に応じて丁寧かつ慎重に対応している点が評価できる。成績不振学生以外にも、英文学科、史学科、地理学科では入学時の新入生面談、哲学科と地理学科では新入生を対象とした新4年生による履修相談会（ラーニングサポーター制度を活用）、英文学科では時間割相談会を実施するなど、学生に寄り添った対応をしている。学科によってはラーニングサポーター制度の恩恵を受けた学生が、次年度以降に学習系のサークル内で履修相談を行うようになるなど、課外活動における自主的な取り組みにつながった例もみられ興味深い。</p> <p>2022年度の目標は重点目標を含めて概ね達成されている。達成されていなかった場合もその理由が記載されており、2023年度の目標として引き続き設定されている。</p> <p>今後、COVID-19禍から通常に戻る中で、禍中に得た経験も活かして、さらに高い水準の教育、研究が行われることを期待する。</p>
<p>【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>文学部では、大学評価委員会の評価結果をふまえ、各学科における改革の取り組みを続けている。2023年度は、帰国生入試、グローバル体験入試、自己推薦入試、国際バカロレア入試といった総合型選抜入試を再編成することを決定した。さらに、学部全体としてカリキュラム改革に取り組み、2023年度に学則改正を行った。一方で、学生の意見をよりよく把握し、それを教育の質向上に活用するための方策について、文学部質保証委員会で意見交換を行い、2023年度第11回教授会において報告した。</p> <p>2024年度は、①カリキュラム改革に伴って新たに変更のあった科目の履修者動向を検証することで、学生に資するカリキュラムのあり方に関する議論を深める。②文理融合科目や双方向型授業の好例を共有することで、教育の質のさらなる向上を促す。③再編成した総合型選抜入試については、2025年度入試において予定どおり実施できるよう準備を行う。④SSIコースに所属している学生に対する学習支援についても検討を深め、効果的な方策を検討する。</p>

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ	A（概ね従来通り
-----------------------	----------------------	----------

握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	である又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	学位授与方針に基づき、各学科の専門分野の学問内容を積み上げてゆく専門科目と幅広い知識や教養を身につける教養科目とを融合・連携させた、現行の教育課程・教育内容をさらに発展させる。また、全学共通の新規科目の取り込み方を含め、設置科目の見直しを引き続き行う。	
年度目標	教養科目と専門科目との連携を深めること等を目指したカリキュラム改革を実現する。	
達成指標	各学科においてまとめたカリキュラム改革案にもとづいて学内の調整を進め、教授会で学則改正のための手続を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科においてカリキュラム改革をとりまとめ、第7回・第8回教授会において学則改正を承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学科および学部で十分に議論を重ね、ILAC側との協議も経て、教授会でカリキュラム改革にかかわる学則改正を承認した。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	

中期目標	教育課程の編成・実施方針に掲げた課題の発見・解決やそれを表現する能力の涵養に資する教育方法を、各年次における演習科目等で継続するとともに、他の科目でも適用範囲をさらに広げてゆく。	
年度目標	カリキュラム改革による変更点を見通しつつ、卒業論文につながるよう設計した授業の配置が適切になされているかどうか検証する。	
達成指標	各学科会議においてカリキュラムマップやカリキュラムツリーの適切性について議論し、見直すべき内容があれば修正する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	各学科においてカリキュラムマップやツリーの点検を進め、一部修正を行うとともに、執行部において学習成果可視化システムを用いながら適切性についても検証を行い、第9回教授会で審議承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	来年度からのカリキュラム改革を念頭に、各学科でカリキュラムマップやカリキュラムツリーを再点検し、教授会でそれらを審議・承認した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	演習以外の科目においても、双方向型の運営部分をさらに充実することにより、学生の学習成果についてより精緻に把握する。学期中の各段階における学習成果の測定をより細かく行い、それを学生へ適切に伝えられるようにする。	
年度目標	学生が提出する課題回答に対して教員が十分に対応できているかアンケート等を参考にしつつ引き続き検証する。	
達成指標	各学科会議で聴取した意見をとりまとめ、教授会に報告する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科での議論を元に第2回質保証委員会で審議し、第11回教授会で報告された。学生へのフィードバックが多く授業で実施されている学科、授業改善アンケートのフィードバックを掲示している学科などの取り組みを共有した。一方で授業改善アンケートの回答率が低いとの指摘もなされた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	質保証活動などを通じて、学生の提出物や要望を把握し、それを教育の質向上につなげるための議論をした。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	質保証活動や各学科での議論においてなされた提言を、今後どのように具体化していくかについて、見通しを示すことも重要ではないか。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	学生の受け入れ方針として設定した能力・意欲等を入学した学生が有していたと言えるか否か、各種の入学試験経路別に分析を続けることにより、それぞれの試験のあり方を再検討してゆく。	
年度目標	外国人留学生入試の制度について、さらに望ましい方法を検討する。	
達成指標	留学生入試制度の改善案を各学科・入試小委員会で審議し、必要に応じて教授会において制度の変更を行う。	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	留学生入試制度のうち「小論文+面接型」を「日本語学校指定校入試」に改めることとし、第8回教授会で承認した。

報告	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	入試小委員会で審議された提言を教授会で承認し、外国人留学生入試制度の大きな改革を実現した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標		年齢、国際性等の観点から教員組織の現状を検証し、専任教員を適切に採用する。
達成指標		人事委員会および教授会において、教員構成の現状と学部学科の将来構想をふまえて、専任教員の新規採用に関する検討を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第2回・第3回・第4回・第5回・第6回・第7回人事委員会および教授会において哲学科、英文学科、史学科、地理学科の専任教員人事について十分な議論と検討を行い、教員構成の改善につながる専任教員の採用を実現した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	人事委員会と教授会で、教員組織の現状と将来構想を十分に考慮しつつ、人事案を審議・承認した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		学生支援
中期目標		①成績不振学生への個別指導を丁寧に行う。また、外国人留学生、体育会学生等への特性に応じた支援も行う。
年度目標		①成績不振学生の定義と指導方法を見直し、より適切な指導がとれるようにする。体育会学生への支援につながる情報提供も行う。
達成指標		①成績不振学生の定義を再整理して教授会で審議・確定した上で、学科毎に個別の学生指導を行って教授会に報告する。年度初めの体育会学生向けガイダンス等も実施する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第1回教授会で成績不振学生の定義を見直すとともに、対応について検討して、各学科において指導を行った。体育会学生向けガイダンス等も学科単位で実施した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	昨年度からの議論をふまえ、新たな方針のもとで成績不振学生に対応し、学科間で意見交換を行った。また、体育会学生に対してもガイダンスを行った。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		学生支援
中期目標		②学生のキャリア支援に関する施策を積極的に導入する。
年度目標		②キャリア支援に繋がる授業科目のさらなる充実を図る。
達成指標		②学部共通科目「現代のコモンセンス」において海外で活躍する方による講演を実現し、共通科目運営委員会においてその効果について検討する。
教授会執行部による点検・評価		

年度末報告	自己評価	S
	理由	「現代のコモンセンス」においてユネスコ本部で活躍する講師に講演していただき、学生の国際性を涵養するとともにキャリア支援につながる授業を実現した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	「現代のコモンセンス」で、国際機関に勤務する講師を招聘できたことは、学生が国際情勢を理解し、世界を舞台に活躍するキャリアを思い描くうえで、非常に効果的だった。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		学部の教育・研究を社会へ広報することで学部の社会における認知度を高めつつ、社会人の学び直し等の機会提供に努める。
年度目標		学部専任教員の教育・研究・受賞・出版等の成果を積極的に広報し、学部の社会における認知度を高める。
達成指標		学部専任教員による、社会貢献につながる諸活動・諸成果を大学ホームページや文学部ホームページに掲載する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	研究・教育活動に対する受賞・表彰者2名が2023年3月および9月に大学ホームページに掲載された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	すぐれた業績をあげた教員をホームページで紹介することで、学部での教育や研究を広報した。年度目標は達成できたと言える。なお、執行部の自己点検・評価は、2023年3月の記事に言及しているが、これは昨年度のことなので、記さなくてもよいのではないか。
改善のための提言	—	
【重点目標】 専門科目と教養科目との連携を深めること等を目指したカリキュラム改革を実現する。		
【目標を達成するための施策等】 2021年度以来各学科および学部教授会で検討を続けてきた学部カリキュラム改革案について、ILACや他学部との調整を行い、教授会において改革内容を決定する。秋学期には学則改定を学部長会議において提案する。		
【年度目標達成状況総括】 文学部では学部カリキュラム改革に取り組み、各学科における審議を経て市ヶ谷リベラルアーツセンターとの交渉と調整を行った。秋学期には教授会で学則改正内容を審議承認し、学部長会議において学則改正を提案・実現した。今年度中に十分なカリキュラム改革が実現したわけではないが、学内の諸課題をふまえ、今後とも検討を行っていく必要があることを認識している。留学生入試制度の改革も実行した。成績不振学生への個別指導も実施し、キャリアと国際性を涵養する学部共通科目も充実したものとなった。教員組織のありかたについても適切に検討した上で人事採用につなげることができた。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	学位授与方針に基づき、各学科の専門分野の学問内容を積み上げてゆく専門科目と幅広い知識や教養を身につける教養科目とを融合・連携させた、現行の教育課程・教育内容をさらに発展させる。また、全学共通の新規科目の取り込み方を含め、設置科目の見直しを引き続き行う。

年度目標	カリキュラム改革に伴って変更のあった科目の履修者動向の検証を開始する。 カリキュラム改編に向けた科目の整理統合について検討する（心理学科）。
達成指標	カリキュラム改革に伴って変更のあった科目について、各学科で履修者動向を調査し、教学改革委員会にて、その結果を報告する。 教学改革委員会等でカリキュラム改編の改定案を報告する（心理学科）。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	教育課程の編成・実施方針に掲げた課題の発見・解決やそれを表現する能力の涵養に資する教育方法を、各年次における演習科目等で継続するとともに、他の科目でも適用範囲をさらに広げてゆく。
年度目標	文学部において実現可能な文理融合科目について検討する。
達成指標	文学部での文理融合科目の実例を教授会で紹介する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	演習以外の科目においても、双方向型の運営部分をさらに充実することにより、学生の学習成果についてより精緻に把握する。学期中の各段階における学習成果の測定をより細かく行い、それを学生へ適切に伝えられるようにする。
年度目標	授業期間内に学習成果の把握とフィードバックを実践している双方向型授業をとりあげ、そのあり方を検討する。
達成指標	演習以外の科目で、双方向型の授業の実例を教授会で紹介する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	学生の受け入れ方針として設定した能力・意欲等を入学した学生が有していたと言えるか否か、各種の入学試験経路別に分析を続けることにより、それぞれの試験のあり方を再検討してゆく。
年度目標	再編成した総合型選抜入試の実施に向けた準備を行う。
達成指標	再編成した総合型選抜入試の実施に向けて、求める学生像を明文化し、入試要項を作成する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標	年齢、国際性等の観点から教員組織の現状を検証し、さらに多様性をもった教員構成を目指す。
達成指標	人事委員会および教授会において、過年度の教員採用状況を共有し、教員構成の将来像を見据えつつ、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
評価基準	学生支援
中期目標	①成績不振学生への個別指導を丁寧に行う。また、外国人留学生、体育会学生等への特性に応じた支援も行う。
年度目標	2024年度よりカリキュラム改定を行った SSI コースの学生に対する修学支援のあり方を検討する。
達成指標	①SSI コースの学生を対象に学生モニターを実施し、修学上の課題を明らかにする。 ②SSI 運営委員を中心に、必要に応じて関連部局と連携しながら、上記課題の改善策を検討し、教授会で共有する。
評価基準	学生支援
中期目標	②学生のキャリア支援に関する施策を積極的に導入する。
年度目標	現代社会の動向を考慮しながら、キャリア支援に繋がる学部共通科目の内容をさらに充実させる。
達成指標	学部共通科目「文学部生のキャリア形成」において国際経験豊かな方による講演を実現し、共通科目運営委員会においてその効果について検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学部の教育・研究を社会へ広報することで学部の社会における認知度を高めつつ、社会人の学び直し等の機会提供に努める。

年度目標	学部専任教員による社会貢献活動を継続的に実施し、学部の社会における認知度を高める。
達成指標	学部専任教員による、社会貢献につながる諸活動・諸成果を文学部ホームページに掲載する。
【重点目標】 2024年度よりカリキュラム改定を行った SSI コースの学生に対する修学支援のあり方を検討する。 【目標を達成するための施策等】 ①SSI コースの学生を対象に学生モニターを実施し、修学上の課題を明らかにする。 ②SSI 運営委員会を中心に、必要に応じて関連部局と連携しながら、上記課題の改善策を検討し、教授会で共有する。	